「食品ロス削減全国大会in富山」の開催結果の概要

資料2-1

大会の概要

1. 目的
　食品ロス削減の取組みのより一層の加速化を図るため、第4回食品ロス削減全国大会を本県で開催し、食品流通段階における商慣習見直しなど本県の先駆的な取組みを発信するとともに、関係者が交流できる機会を創造することで、県民、事業者、関係団体、行政の連携を一層強化し、削減に向けた機運の醸成を図る。

【大会パンフレット】

2. 日時　令和2年12月16日（水）13:30～18:00

3. 主催　富山県、全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会
　共催　消費者庁、農林水産省、環境省

4. 開催方法　①会場開催（富山県民会館）
　②WEB開催（ライブ配信・アーカイブ配信（R2.12.18～R3.3.31））
　※　新型コロナウイルス感染症の予防対策の観点から、会場への来場が困難な方向けに、オンライン上での情報発信も実施

5. 参加者数　①会場参加者数：250名（県外81名・県内169名）
　②WEB当日視聴者数：561名

大会のプログラム

大会テーマ：使いきり　食べきり　すっきり　エコライフ

＜メイン大会＞
①式典（オープニングイベント、主催者挨拶、来賓祝辞）

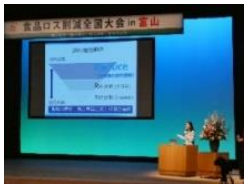
＜井上内閣府特命担当大臣（伊藤消費者庁長官　代読）＞
・ 商慣習見直し等に関する共同宣言や、県計画の策定など、全国に先駆けた取組みを進める富山県での大会開催は非常に意義深い。
＜野上農林水産大臣（VTR出演）＞
・ 3015運動など、富山県の特色ある取組みが全国各地へ広がることを期待
＜小泉環境大臣（VTR出演）＞
・ 事業者による積極的な取組みと消費者の行動変容や意識改革を両輪として促し、こうした事業者が、市場で消費者に選択されるような好循環を形成していくことが重要

【伊藤長官】

【野上大臣】

【小泉大臣】

②基調講演（井出留美 氏：食品ロス問題ジャーナリスト）
・演題：「賞味期限のウソ　食品ロスはなぜ生まれるのか」
・内容：・ コロナ時代の食品ロスの状況
　・国内外の削減の取組事例紹介
　・家庭で取り組める10項目のポイント　等



【基調講演の様子】

③トークセッション

④大会宣言

＜パネル・ブース展示＞
　参加者が先駆的な食品ロス削減の取組みの情報交換や交流ができる機会を創造するため、パネル・ブース出展を実施。

◆出展者数

	パネル	ブース	計
会場展示	27	8	35
オンライン展示	24	6	30

【パネル展示の様子】

【ブース展示の様子】

【オンライン展示の様子】

トークセッションの概要

テーマ：地域で挑む商慣習の見直し　～食品ロスの削減に向けて～

【トークセッションの様子】

1. 目的
　食品ロス削減のための商慣習見直しの理解促進及び取組事業者の拡大に向け、各パネリストが主体的に実施する取組みや課題等を発表し、参加者一人ひとりが商慣習見直しについて考える機会を創出し、意識啓発を行う。また、全国に先駆けた富山県の取組みを全国に発信し、広く波及させる。

2. 内容
・商慣習見直しの概要、県が取組みを始めた経緯の説明
・各パネリストの取組みに関する発表、意見交換

パネリスト	主な発言内容
製造業 井辻秀剛　氏 （北陸コカ・コーラボトリング（株）代表取締役社長）	・ 賞味期間が長い商品の年月表示化を実施済み。消費者や業界関係者の理解が進めば、賞味期間が短い商品にも年月表示を導入できるのではないか。 ・ 社内の関係部署の連携強化やコロナ禍での製造計画の見直しの結果、社員の意識が変化し、廃棄が大幅に減った。
卸売業 澤田佳宏　氏 （北陸中央食品（株）代表取締役社長）	・ 需要と供給のグッドバランスを図ることが卸売業の使命 ・ 納品期限の緩和（1/3ルール→1/2ルール）により、倉庫等の商品管理コストが下がり、また、商品の回転数が上がることで、ロスが大幅に減った。 ・ 単体では取組みが困難な課題に、皆で協力し合って、問題解決を図っていくことが一番大切な食品ロスのテーマであり、取組み方ではないか。こうした意味で、全県的な1/3ルールの見直しの取組みは、大きな価値があったと感じている。
小売業 池田和男　氏 （アルビス（株）代表取締役社長）	・ 納品期限の緩和や販売期間の延長は既に実施済みであり、物流センターからの商品の返戻は大きく削減できている。 ・ 今後は、製造・卸・小売が一層の連携を図り、リードタイムの施策など、さらに踏み込んだ取組みが必要。また、多くの消費者に参加していただける食品ロス削減の取組みを企画し、計 画的・ 継続的に実施することで削減の機運を高められたら良い。
消費者 岩田繁子　氏 （富山県婦人会会長）	・ 消費者は商慣習や消費・賞味期限の違いに関する理解を深めることが重要 ・ 一人でも多くの方が、それぞれの立場で取組み、協力し合うことが大事 ・ 婦人会として、考える機会を1回でも多く持ち、意識啓発に努めていきたい。
関係団体 崎田裕子　氏 （全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会会長）	・ 事業者の取組みは効果が大きいが、それを受け止める消費者の存在が重要。富山県は、県全体でそのネットワークが構築されており、商慣習見直しの取組みを明確に発信したのは富山の個性であり、応援したい。 ・ 地域のなかで、事業者と消費者が意見交換する機会をつくり、できるだけ増やすことが重要。こうした富山県の取組みを、全国に広げていくことが大事。

＜まとめ＞牛久保　明邦　コーディネーター（(一社)日本有機資源協会会長、東京農業大学名誉教授）
・ 商慣習見直しについては、消費者を含むフードチェーン全体で、解決を図ることが重要
・ 食品が食品として命を全うして生涯を終えるように、一人ひとりが責任をもって毎日の生活を送ることが大切

大会宣言の概要

2020食品ロス削減とやま宣言

持続可能な社会の実現を目指し、消費者・事業者・行政が協力して取り組むための大会宣言を行った。

【大会宣言の様子】